

北海道民医連の 内科後期研修について

北海道民医連医師研修委員会

勤医協中央病院内科専門研修委員会

中野亮司(なかのりょうじ) mail to: ryojinakano73@gmail.com

北海道民医連の内科後期研修 2つのコース

1. 内科専門医研修プログラム

- 3年間の研修プログラム(中央病院1-2年＋中小病院1-2年)
 - 内科全般の知識, 技術を学ぶ, 新専門医制度に対応した研修内容
 - 新専門医制度での内科専門医, 内科指導医の資格取得をめざす

2. 内科短期研修(transitional year研修)

- 1-2年間程度のローテート(中央病院内科系各病棟, 救急, 中小病院, 診療所など)
 - 3年目では専門医研修プログラムにのらない, 自由度の高い後期研修

内科短期研修 概要

- 初期研修修了後，3年目より行う
 - 習得すべき知識・技術は，日本内科学会内科専門研修カリキュラムに準拠
 - 入院，外来，救急の場面で経験する一般的な内容となります
 - 対象となる研修医
 - 内科以外の科を希望しているが，専門医研修を始める前に内科をしっかりと学びたいという先生
 - 専門医研修プログラムでの研修は行わず，中小病院や診療所で地域医療を学びたいという先生
 - 北海道民医連医師研修委員会の指導医（内科指導医）が，指導責任者となる

内科短期研修 特徴

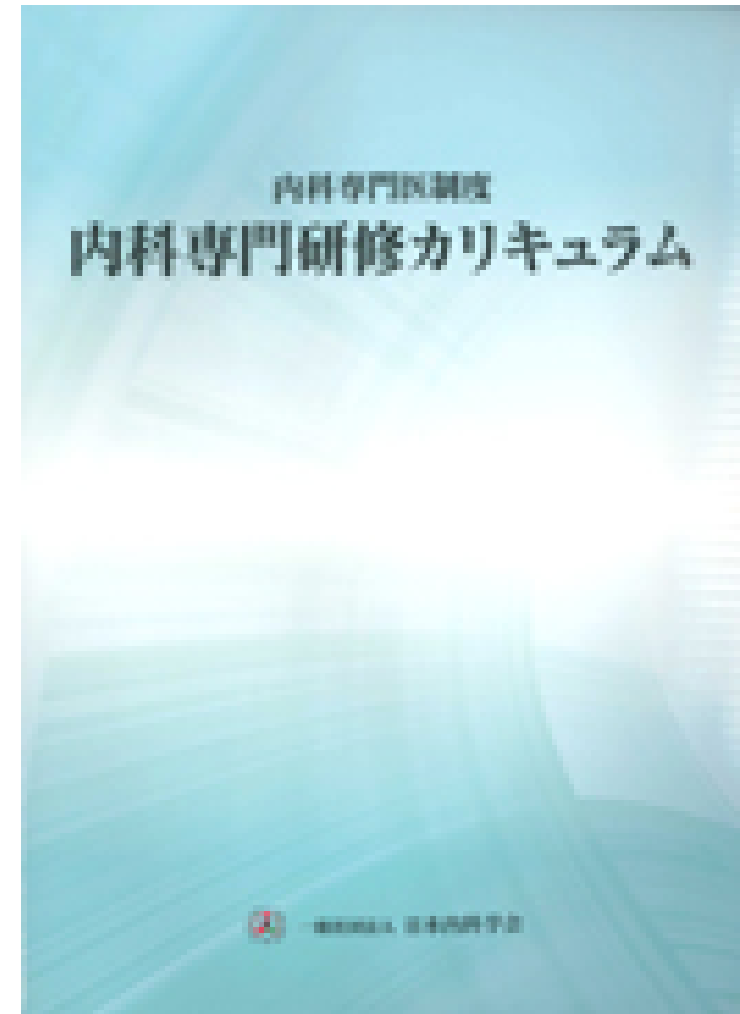
- 専門医研修を始める前に一般内科研修を希望する先生のためのプログラム
「専門医研修を始める前に、地域医療やへき地医療を経験したい」
- 初期研修修了までに、将来を決められない先生のためのプログラム
「内科以外の専門科の専門医志望だが、決められない」
- 中央病院以外の施設での診療経験が可能
 - 3年目から中小病院での研修を行うことも可能
 - 診療所研修も可能

内科専門医研修プログラム 概要

- 研修理念～研修プログラムの目指す医師像
 - 北海道の地域医療を担うことができる内科医の育成を目的とします。専攻医は、総合的な内科の知識・技術を習得し、へき地医療から高度専門医療まで、また外来診療や在宅医療から、回復期・急性期病棟、救急診療まで、あらゆる内科の診療の場で活躍できる医師を目指します。また、知識・技術の習得のみならず、医療者としての人間性を涵養し、医学・医療の発展のために努力する医師を目指します
 - 北海道民医連の各施設は、いのちの平等を掲げ、無差別・平等の医療を実践する活動の中心を担う医師を育てることが、研修プログラムの第一の目的です。医師としての知識と技術を十分に備え全人的な診療を行うとともに、医療をとりまく情勢を十分に捉えることができる社会性を身に付けることも重要な課題です

内科専門医研修プログラム 概要

- 内科専門研修の目標
 - 習得すべきコンピテンシー
 - 総合的な力量を備えた内科医師
 - 北海道民医連医師のめざす7つ星
 - 日本内科学会「内科専門研修カリキュラム」に準拠（日本内科学会ホームページを参照のこと）
 - 習得すべき知識・技術
 - 経験すべき疾患



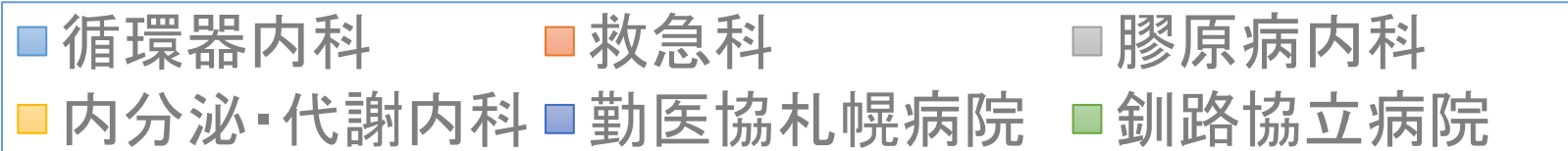
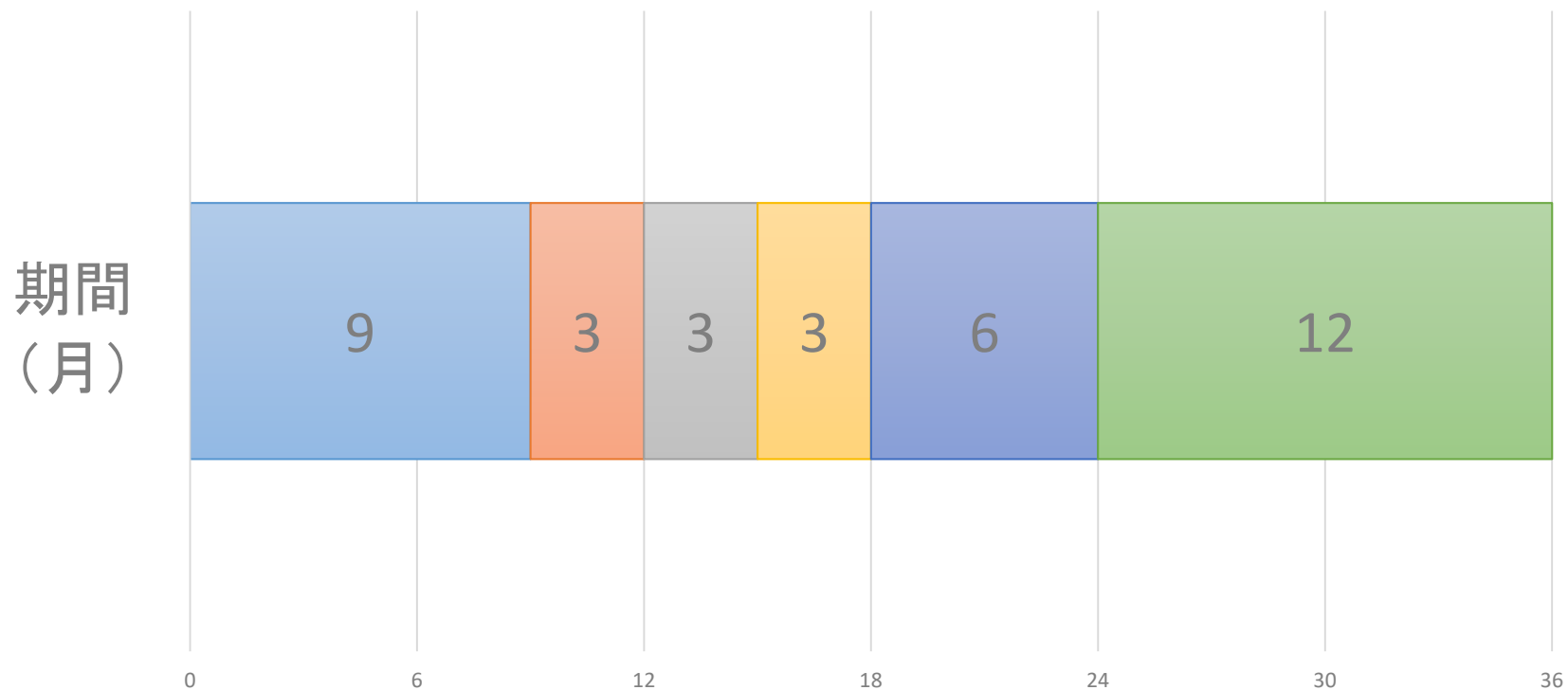
内科専門医研修プログラム 学習方略

- 基本的には、中病各病棟・中小病院のローテート方式
 - 各研修施設において、入院、外来、救急を経験する
 - 勤医協中央病院と中小病院1ないし2施設をローテート。勤医協中央病院は3年目の開始時より18-24か月、その後中小規模病院を12-18か月
 - 勤医協中央病院では、各内科系診療科の病棟、救急部を2-3か月程度の期間でローテート
 - 中小規模病院は、6か月単位でのローテート。1~2施設を選択。原則**地方の病院1施設以上**を選択する
 - ローテートの**必修は救急部のみ**2-3か月とします。その他の期間は、カリキュラムの履修が可能な範囲で、各研修医の希望に応じて、ローテートを組みます
 - 神経内科の専門病棟はなく、総合診療科、救急診療部、中小規模病院のローテートにおいて、必要な症例を経験します。外部研修(さっぽろ神経内科病院)も可能です

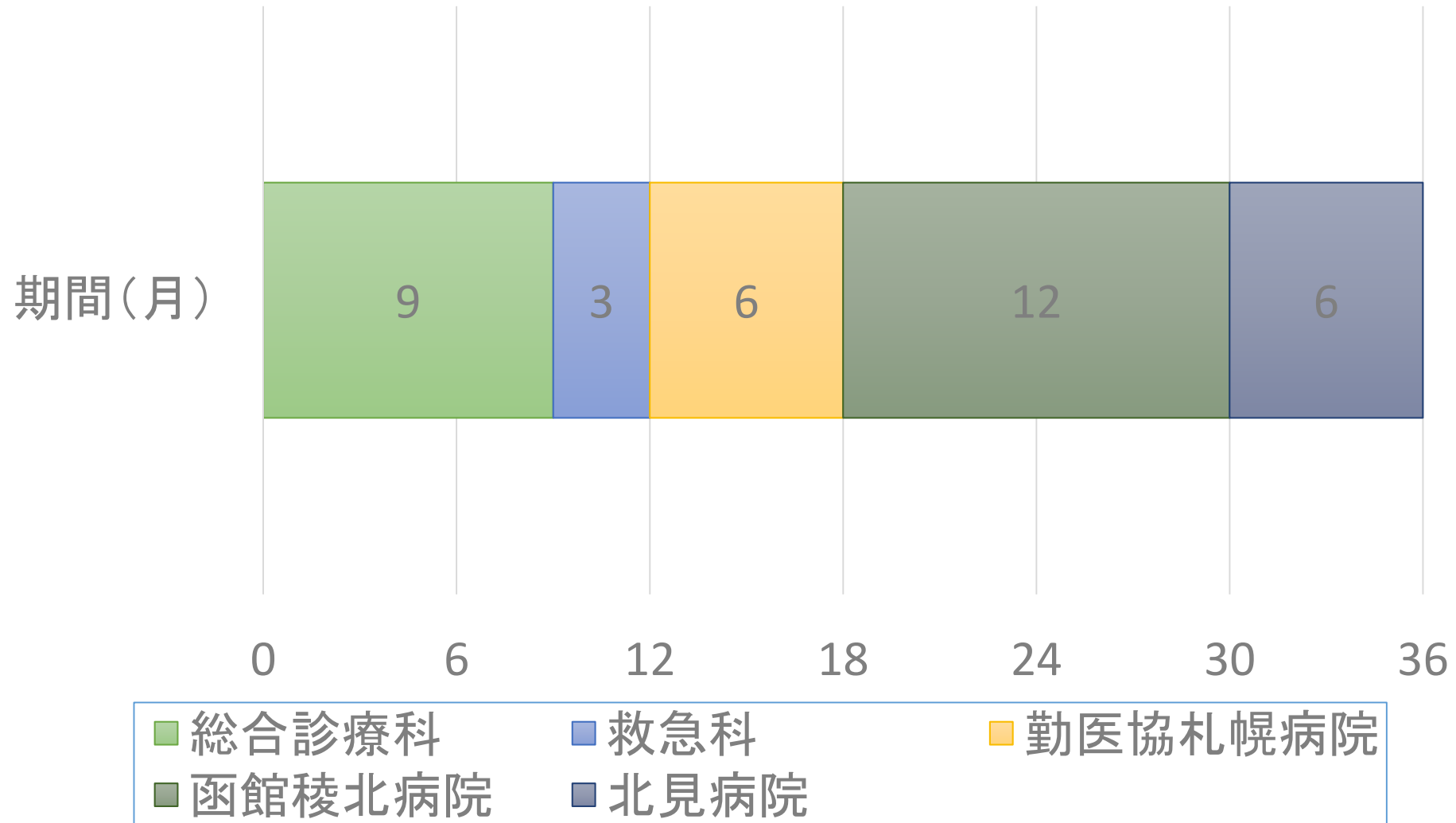
研修施設群

- **地域中核病院**: 勤医協中央病院(基幹施設)
 - 各領域(内科グループ)病棟, 救急部のローテーション
 - 多彩な各領域の疾患や専門医療を経験
 - 一次および二次救急(ER, 救急総合外来)
- **中小病院**: 勤医協札幌病院, 一条通病院(旭川), 函館稜北病院, 釧路協立病院(以上連携施設), 勤医協札幌西区病院, 勤医協苫小牧病院, 十勝勤医協帯広病院, オホーツク勤医協北見病院(以上特別連携施設)
 - 中小病院の研修を行う
 - 入院診療, 外来診療, 訪問診療(在宅診療)
 - 特に地方の限られた医療資源の中で, 主治医としての役割を果たす
- **内科専門病院**: さっぽろ神経内科病院(特別連携施設)
 - 神経内科の専門的な研修(3か月程度)
 - 慢性期の外来診療, 増悪や稀少な疾患の入院診療を経験
- **診療所**: 勤医協伏古10条クリニック, 勤医協札幌北区ぽぷらクリニック
 - 外来研修を行う

ローテーション例 標準コース(循環器科重点)



ローテーション例 地域医療重点コース



内科専門医研修プログラム 学習方略

- 入院診療

- 勤医協中央病院

- 各領域の急性疾患
 - 重症あるいは複雑化した各領域の疾患
 - 各領域の稀な疾患

- 中小病院

- 頻度の高い急性疾患
 - 高次医療施設からの転院 (sub-acute, post-acute)
 - 慢性疾患の急な悪化
 - 患者教育や療養環境の調整

内科専門医研修プログラム 学習方略

• 外来研修

- 外来診療研修は3年間継続して行う。各施設の一般内科外来，救急外来あるいは総合内科外来を担当する。1年目は週1単位，2年目および3年目は週2単位以上とする
- 研修施設とその研修内容
 - 勤医協中央病院ローテート中は，救急総合外来または札幌病院内科外来を担当
 - 一定程度の経験を積んだ後，勤医協伏古10条クリニック，勤医協札幌北区ぽぷらクリニックの内科外来を担当
 - 中小病院では，それぞれの医療機能に応じた診療を行う

内科専門医研修プログラム 学習方略

- 外来診療の内容
 - 勤医協中央病院(救急総合外来)
 - 内科急性疾患
 - 慢性疾患の急な悪化の対応
 - 中小病院・診療所
 - 慢性疾患の管理, 悪化時の対応
 - 健診および健診異常のフォロー, 対応
 - 他科疾患の軽症例の管理・悪化時の対応, 重症例の一次対応

内科専門医研修プログラム 学習方略

- 救急研修

- 勤医協中央病院ER

- 二次救急の受け入れ

- 内科各領域の疾患, 他科疾患の一次対応と専門医への引き継ぎ

- 中小病院

- 一次救急, 重症例の一次対応

内科専門医研修プログラム 学習方略

- 各種講習会，学習会への参加
 - 院内外の学習企画へは，可能な限り参加する
 - 医療安全，医療倫理，CPCは，必須
 - 後期研修医による症例検討会（案）も必須
 - JMECCは，希望に応じてインストラクター資格の取得を目指す
 - 最低1回の講習会への参加は必須
 - インストラクター資格取得のための，指導者講習会やアシスタントとしての講習会参加は，できるだけ可能となるように，体制等を調整する
- 院内での役割
 - 各委員会（感染対策，医療安全，医療倫理，医師研修など）の委員を担う

内科専門医研修プログラム 学習方略

- 各種医学会への参加，臨床研究
 - 日本内科学会北海道地方会，北海道支部主催生涯教育講演会は，可能な限り参加する
 - 全国学会は年1回，内科系サブスペシャリティの学会の地方会も，参加可能
 - 臨床研究を計画的に行い，年に1回以上の発表を行う（症例報告可）
 - 発表内容は，可能な限り医学論文にまとめる（3年間で1編の執筆は必須）

内科専門医研修プログラム 評価の方法

日本内科学会のJ-Oslerに準拠

- 習得すべきコンピテンシーについて
 - 指導医との面談による形成的評価
 - その他(マイルストーンを構想)
- 知識・技術, 経験すべき疾患
 - 研修カリキュラムの項目ごとに, その習得度を確認する
 - 退院時サマリーのチェック
 - 67疾患群+総合内科3症例は, レポートを記載, 提出. 認定医試験の出願で提出するレポートは, 細かくチェックし, 完成させる
 - 症例検討会/CPCでの症例提示
 - 事前に指導医と, 疾患への理解の確認をしながら, 準備を進める
 - 参加者に, プレゼンテーションやディスカッションの内容について, アンケートによる評価をもらう

内科専門医研修プログラム 修了後の後期研修

(1) 領域別専門医研修の専攻医として

勤医協中央病院あるいは他の認定医療施設で、内科系サブスペシャリティ領域の専門研修を行います

(2) 中小規模病院の内科スタッフとして

北海道民医連の各中小規模病院で内科スタッフとして診療を担いつつ、地域医療を中心としたさらなる研修を継続します。そのテーマとして、在宅・訪問診療、家庭医療、リハビリテーションがあります

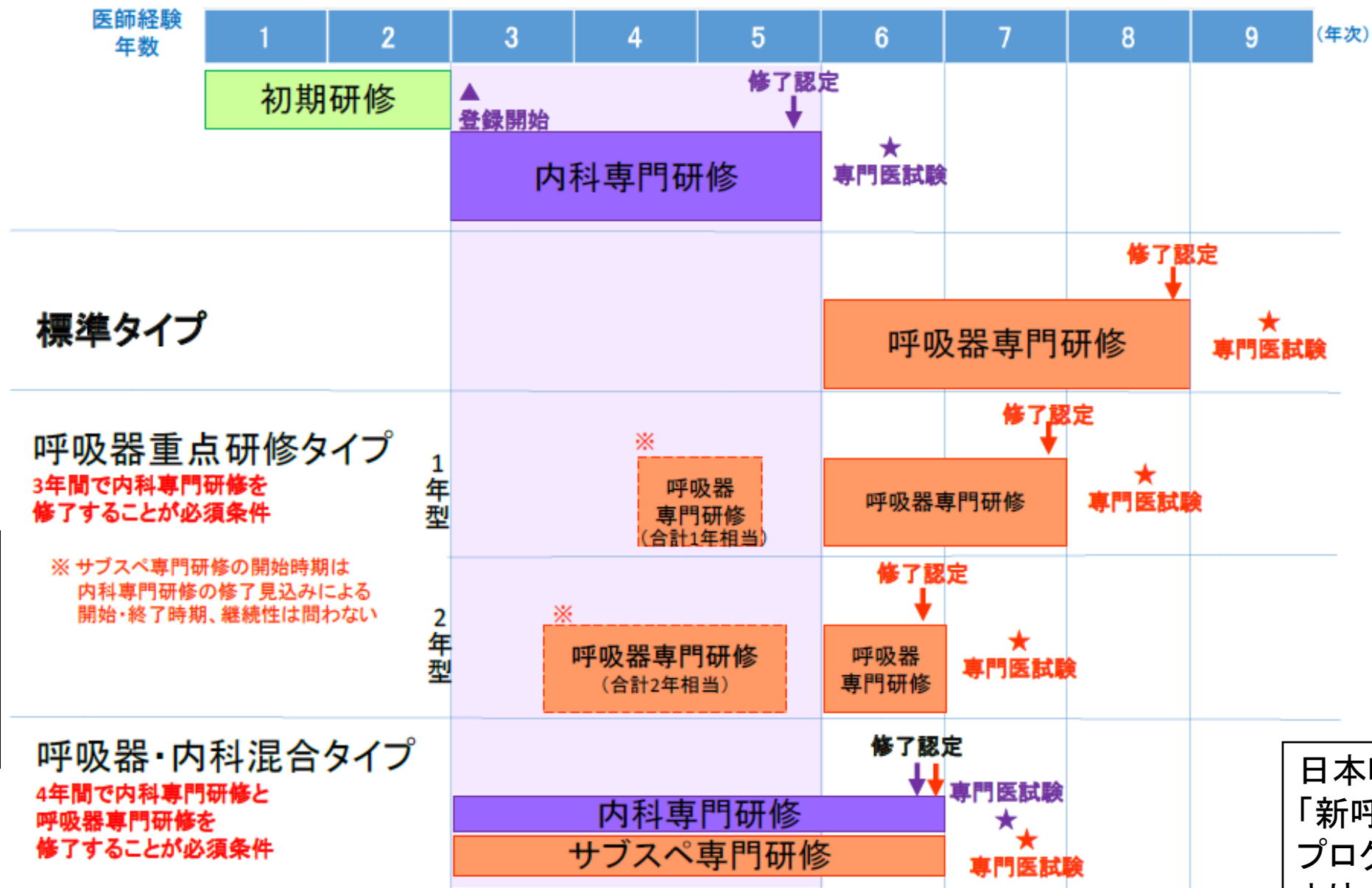
(3) 診療所医師として

医療過疎地あるいはへき地の診療所に勤務し、医療資源の乏しい地域の医療を担います。医療施設や他の施設・事業所、行政との連携を通して、地域医療の向上に寄与する活動を行います

※共通カリキュラム

- 研修指導に関わる講習会、組織の管理、運営に関わる講習会は不定期に開催され、あるいは民医連外の講習会等に参加し、知識を獲得します
- CPCやキャンサーボード、その他、北海道民医連内で行われるカンファレンスや講習会等には、可能な範囲で参加します
- JMECCのインストラクターあるいはディレクターの資格を希望する場合、北海道民医連内外の講習会等へ参加できるよう、可能な限り調整をします

内科専攻医からの呼吸器専門研修の概念図(外科については確認中)



連動研修

※ サブスペ専門研修の開始時期は内科専門研修の修了見込みによる開始・終了時期、継続性は問わない

呼吸器専門研修の登録開始時期は日本専門医機構の決定による

日本呼吸器学会
「新呼吸器専門研修プログラム整備基準」より